

---

# 優しく世界を転ばせます

ぽん太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

優しく世界を転ばせます

### 【Nコード】

N5417BA

### 【作者名】

ぼん太

### 【あらすじ】

ヒーローと悪の秘密結社の戦いによる煽りを食らいまさかの解雇。再就職先は悪の秘密結社！？  
そんなOLのお話。

## ブローグ

私の住んでいる街にはヒーローが居る。まあ、子供騙しみたいなアレだ。長ったらしい変身シーンに、大人の事情やその他諸々が詰め込まれたピツチリタイツに滑稽な戦闘。現実世界にもご都合主義というものが持ち込まれ、悪の秘密結社なんてものまで存在している。お陰でこの街の建造物は数日おきに壊れるわ、大騒動が起こるわで迷惑極まりない。私たちが支払う税金は全て修理費へ消えてしまう。この不況でそんな所に金を湯水のように使えるわけもなく、煽りを食らってまさかの解雇通告。晴れてフリーターなるレッテルを張られた身としては非常に腹が立つわけで。ああ、でも一つだけ朗報がある。次の仕事先が信じられない早さで決まった。給料は良いし、待遇も問題なし。文句なし……と言いたいところだが、まあそこは現実だ。一つだけ問題があったりする。

安藤<sup>ことね</sup>琴音、二十五歳。現在の仕事先は悪の秘密結社です。

## 1話

憐れんだような視線を受けながら、五年間働いた会社を後にする。異様にむしゃくしゃして、誰構わず怒鳴り散らしたくなった。しかも、あらゆる道はつい三日前のヒーローと悪の秘密結社との馬鹿げた争いのせいでボロボロ。穴のあいた道にヒールを取られながらも、どうにか通いなれた駅までの道を進む。

世の中は不平等だ。ヒーローだの悪の秘密結社だのはご都合主義で固められているというのに、私はどうだ。別に世の中のためになるようなことをしているわけじゃないが、かといって犯罪なんてものをしようとも思わない。平穏な人生を過ごしたいと願う一般市民に對して、何て仕打ちだろうか。あのご都合主義共が争うたびに、何かを失うのは私たち一般市民。そのくせニュースではヒーローが神様のように崇められる。この街ではありえないが、他の街ではここに居るヒーローはともなもない人気を誇っているのだ。

あんなピッチリ全身タイツを着た男やら、あからさまにイタイ女たちのどこが良いというのだろうか。日々街を壊し続ける破壊者が、創造主たる神のように崇められるだと？ ちゃんちゃらおかしいわ。心の中で愚痴を吐き出しつつ角を曲がれば、眩暈がした。まさに、私の解雇の原因であり、苛立ちの原因がこちらを背に立っていたのだ。百歩譲って私服だったら、私は見ないふりをしただろう。だが、目の前にいたのは全身タイツ姿。何やら長つたらしい口上を叫んでいるが、頭には入ってこない。悪の秘密結社の一員であるうメンバーは黙ってそれを聞いているだけ。指揮者らしきマッチョのおじさんも不敵な笑みを浮かべているだけで、何もしない。苛立ちの原因が目の前にいて、しかも油断している。そんな状況に立たされれば、誰しもやりたくなるだろう。今日はいつものタイトスカートではなく、私物整理があつたためにズボンを着いてきている。そして足には高いピンヒール。神は産まれて初めて私に微笑んだ。

「この糞どもが！」

赤タイツ男の背中を蹴るというよりヒールで突き刺すように全体重と気持ちを籠めた一撃をお見舞いする。完全に油断していたのだろつ、気持ち悪い悲鳴と共に地面をのた打ち回っている。驚いたように隣の青タイツ（かなりヒョロイ）男がこちらを振り返るので、今度は腹に一撃。茫然として動かないマツチヨのおじさんを思わず怒鳴りつける。

「さつさと畳み掛ける。ヤれ！」

理性だとか、正義感だとかはない。ただ私にとっての敵を排除することしか考えていなかった。マツチヨのおじさんより、周りの部下の方が反応は早かった。のた打ち回っている赤タイツと声さえ上げずに悶絶している青タイツは放置。残っているちよっぴり太った黄色タイツと標準体型の緑タイツ、そしてイタイピンクタイツ女を囲む。戸惑ったように軽い攻撃しか与えないので、思わずまた足が出てしまう。問答無用で黄色タイツの突き出た腹にヒールを食いこませた瞬間、何とも言えない感覚が脳髓まで走った。柔らかい肉にヒールが突きささる感覚。自らの敵を排除している快感。

「もう一度言っ。ヤれ」

上がった口角に、自分の声かと疑うぐらいの重低音。ビクつく男共を見るたびに、心が満たされる。きつと悪役たちは今やらねば次にやられるのは自分だと気付いたのだろつ。急に攻撃に戸惑いや手加減が無くなった。

自分の敵が上げる情けない悲鳴。心がスツと軽くなり、気付けば鼻歌まで歌っていた。そんな私に声をかけたのはマツチヨのおじさん。彼は地獄絵図の中で、私以外で唯一平然としていた。

「お前さん、ちよいと面白いことせんか？」

につこり笑ったおじさんは、とても楽しそうだった。

あの後、私は秘密結社の参謀役として正式に就職した。何故こんなことになったのか。あのときの自分がやり過ぎたからだろつとは思っただが、まったく後悔も反省もするつもりはない。結果として

就職先は決まっ  
たし、  
憂さ晴らしも出来た。  
一石二鳥の出来事であ  
ったのだから。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5417ba/>

---

優しく世界を転ばせます

2012年1月14日22時52分発行